



1.4. 輪島市内の建物倒壊 2. 崩れた山肌 3.1 階部分がつぶれた住居 5. 液状化により突き出たマンホール 6. 棚から崩れ落ちた食器

特集

災害に備える

1月1日に最大震度7の揺れを観測する大地震が能登半島を襲い、甚大な被害をもたらしました。いなべ市では災害発生翌日から現在に至るまで、7つの支援業務で延べ34人の職員が災害派遣に向かいました。今月号では、支援活動に当たった職員が現地で見感じたことをお伝えします。災害派遣職員の声から、災害に備えるために必要なことは何かを考えてみませんか。

いなべ市の災害派遣

災害発生直後

現在

給水支援

総括支援

避難所運営

保健師活動補助

下水道施設調査

解体受け付け

被害認定調査



水の備えは必要不可欠と感じました

元旦の大地震以降も地震が多く、携帯電話の緊急地震速報がずっと鳴っている中で、緊張感のある活動でした。

給水支援で向かった先は、地震によって、町中が断水していました。水道管は地中にあるので、断水の原因を探るのに時間がかかります。復旧には、時間がかかるだろうと思いました。

活動中、現地の人が「遠いところからありがとう」と言ってくれたのです

が、かける言葉が見つからなくて心が痛かったです。「水さえ出れば家に帰りたい」とも話していて、生活の中の「水」の重要性を改めて感じました。

我々は災害発生後24時間以内に出発しましたが、水を配布できたのは災害発生から2日後です。だからこそ、家庭で「保存水」を備えておくことが大事だと感じました。生活用水を運ぶために、「ポリタンク」も併せて準備を。



水道工務課 長谷川 寛次
派遣期間：1月2日～7日

《給水支援の動き》

1月1日(月)
災害発生

1月2日(火).....



北勢庁舎出発

災害発生翌日の午前10時に派遣要請があり、その日の午後3時に2.5トンの給水車で出発

1月4日(木).....



宝達志水町で給水活動

前日に引き続き、給水袋を配布。町は断水しており、被災者のイライラも募っている様子でした

1月6日(土).....



輪島市で給水活動

宿泊先の金沢市から片道6時間かけて輪島市へ。移動中はトイレに行けないので、朝食・昼食を抜いて移動。暗くなると道路の亀裂に気付かず滑落する危険が高くなるため、限られた時間内で給水活動に当たりました

輪島市

穴水市

七尾町

宝達志水町

.....1月3日(水)

宝達志水町で給水活動

浄水場で給水車に水を入れ、町民センターまで運び、給水袋(6リットル)に水を入れて配布



.....1月5日(金)

穴水町で給水活動

目的の穴水町までは国道一本道。道路の損傷が激しく、地図を頼りに迂回路を探して進みました



.....1月7日(日)

七尾市で給水活動

支援先の自治体職員は「まさか自分のまちがこんなことになるなんて…」と話していました





発生から
3週間後

保健師活動補助

現状把握の難しさを実感



1.2. 倒壊した建物をよけて対象者の自宅に向かう 3. 在宅避難住民に健康状態を聞き取る 4.5. 保健センターで情報共有してから活動へ 6. 危険の程度を示す赤色の貼り紙があっても、在宅を希望する人もいたため、一軒ずつ確認 7. 感染症への対応 8. ポリタンクの水を少しずつ使う



健康推進課 中村 範子
派遣期間：1月18日～23日

緊急時に生きる「地域のつながり」

「この先、どうなるのか…」

保健師として輪島市の住民の健康と衛生管理の支援に向かった避難所では、先の見通しが立たずに将来を不安視する声を聞きました。

派遣された輪島市は、高齢化率が高い地域。遠く離れた二次避難所への移動をためらい、住み慣れた自宅での避難を希望する人も多くいました。その人たちの健康管理も行うため、地図を

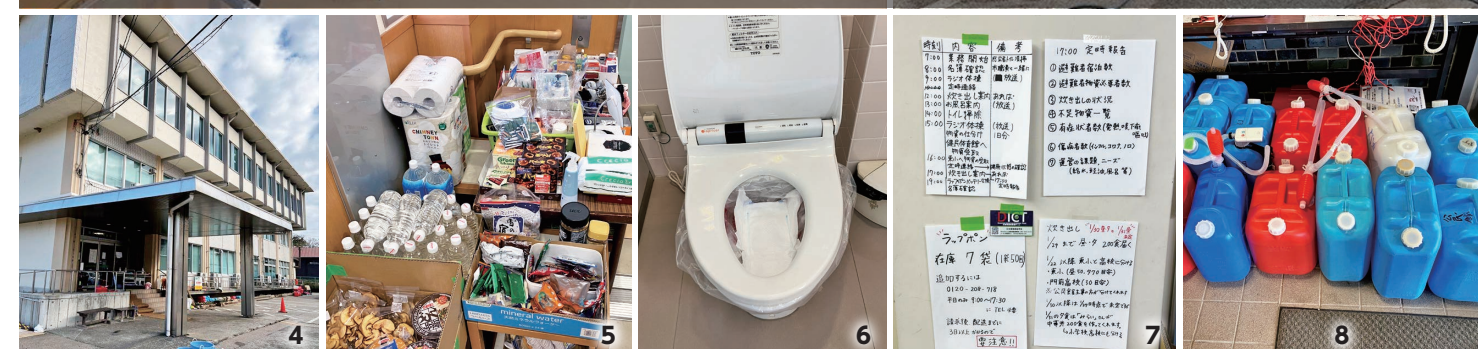
頼りに一軒一軒自宅を回りましたが、不在も多かったです。避難所、在宅避難、車中泊など、避難先の選択肢はさまざま、地震発生から3週間経っていても、被災者の現状把握の難しさを感じました。そんな中、近所の人から「その人なら市外の親せき宅に避難しているよ」と教えてくれました。普段から地域の人のつながりを大切にしておくと、緊急時に力を発揮すると感じました。



発生から
1カ月後

避難所運営

張り詰めた糸が切れるとき



1. 刻々と変わる情報を確認 2. 倒壊した家屋 3. 避難所の屋外に設置された仮設トイレ 4. 派遣先の避難所 5. 救援物資は乾物が多く、避難所の高齢者で手に取る人は少なかった 6. トイレにオムツを入れて使用 7. 連絡事項は紙に書いて共有 8. 暖房用の燃料を入れるポリタンク

日常を取り戻せるように

私が輪島市に到着したのは、災害発生1カ月後。ペしゃんこに全壊した家が多く見られ、その光景にショックを受けました。

私の任務は、住民自らが避難所を運営していくためのお手伝いでした。支援先として向かった避難所は、輪島市の公民館。避難者は大部屋で暮らしていて、ストレスのかかる環境でした。大部屋では明るく気丈にしていますが、

私と2人きりになったら涙を流す人が何人もいました。「女性の職員さんから話せる…」と胸の内を話してくれた人も。避難者は「みんな大変だから、自分だけ弱音を吐けない」と、緊張の糸を張って生活していました。

支援活動中は、避難者の皆さんの話を聞くことを心がけました。一刻も早く緊張の糸を緩めて、日常を取り戻せることを願っています。

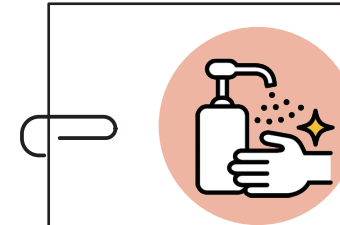


健康推進課 村山 有加
派遣期間：1月26日～2月1日



携帯トイレの準備を

訪問した避難所では、感染症が広まっていた。共有のトイレを使うことをためらい、食事や水分の摂取を我慢すると体調不良につながります。成人のトイレの平均使用回数は1日5回です。携帯トイレを7日分用意しましょう。



避難所生活で断水による不便さを実感

断水のため、手洗いはタンクから水をチョロチョロと出して使う状況でした。普段の生活で、手洗いやうがいなどで生活用水をたくさん使っていることを実感。衛生ケア用品の準備や生活用水の備蓄の大切さを感じました。



環境政策課 林 幹大
派遣期間：3月1日～7日

普段から備えを

ファイルボックスにぎっしり入った緊急公費解体の申請書に驚きました。

私の任務は、輪島市で緊急公費解体の申請書の受け付け処理でした。緊急公費解体とは、被災した建物の中で二次被害の危険が高い建物を、公費で緊急的に解体することです。あふれ返りそうな申請書は、被災した建物のごく一部でした。

しかし、さまざまな要因で申請が進まない現状を思い知りました。多く見られたのは、相続登記されずに所有者が何代も前の故人のケースです。また、隣の家にもたれかかっている場合、解体に当たり隣接者の同意書が必要になるのですが、隣接者の連絡先が分からなくて同意書が用意できないことも。

登記を確認する、隣人とコミュニケーションを取るなど、緊急時に困らないためにも普段から取り組めることがあるのではと感じました。



1.2.3. 輪島市の公費解体による災害廃棄物の仮置き場 4. 緊急公費解体の申請書が700件以上。これでも輪島市内の被災建物のごく一部で、今後さらに申請が増える見込み 5. 他市からの派遣職員と協力しながら、受け付け作業をひたすら進める



1. 今にも崩れそうな調査対象家屋の中に入るため、ヘルメット着用 2. 調査後は認定作業に入る 3.4. 住宅の基礎部分に損傷を受けていないかなどを調べる 5.1階部分がつぶれた家屋が多く見られた



納税課 日紫喜 珠実
派遣期間：5月21日～27日

生活の立て直しへ

私は災害発生4カ月後に輪島市に入り、被害を受けた家屋の現地調査をして被害の程度を判定しました。生活再建の足掛かりになる「^{りきい}被災証明書」を発行するための調査です。

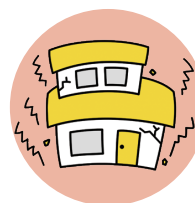
実際に損壊した家の中に入ると、正月用のお餅が台所に置いてあるなど、震災直後から時が止まった光景に心が痛みました。そんな中、調査の立ち合いで出会う所有者の皆さんは、明るく私たちに接してくれました。私にできることは微力だけど、少しでも再建への力になれるように精一杯やろうと思い、業務に取り組みました。

現地調査で、1階部分がつぶれたり、天井や壁がはがれ落ちたりと、特に築年数が古い家の倒壊を目の当たりに。家に住めなくなると、仕事などの生活のあらゆる面に影響を及ぼします。自宅の耐震化を進めることは大切だと感じました。

家の耐震状況を確認

派遣で倒壊の多さを目の当たりにして、築年数の古い家に住んでいる自分の祖母宅のことが気になりました。

昭和56年5月31日以前に建てられた建物は旧耐震基準が適用されています。親族の家を含め、建築年を確認してみましょう。



自分の家は無事でも…

横の家が倒れてきたり、ブロック塀が崩れたり危険な箇所は身近にもあります。普段から、危険な箇所を家族で話し合ひましょう。

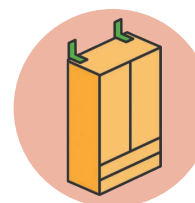


家具の転倒の恐ろしさ

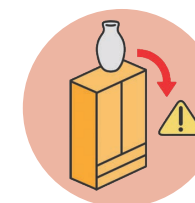
たんすや食器棚が倒れ、家の中で散乱している状況をたくさん見て、「家具って、こんな倒れ方するんや…」と怖くなりました。

食器棚の引き出しにストッパーを付ける、家具を固定する、たんすの上に物を置かない、などの工夫をすることで守れる命があります。

家具転倒防止器具で固定



たんすの上に物を置かない



寝ている所を避けるように家具を移動



今こそ、災害に備えるとき。

いなべ市女性消防団と一緒に、災害時の備えを **check**

いなべ市女性消防団

まちの防災や減災を目指して、啓発活動を行っています。
2021 年から活動を開始しました。



備えが必要なワケ

いなべ市は中山間地があり、大きな災害時にすぐに支援が届かない可能性があります。だからこそ、自力で **1 週間を乗り切る分の備え** をしておくことが大切です。まずは、1 週間分の水と食料を備蓄しましょう。食料品は、定期的に点検し、**ローリングストック**を活用し、消費と備蓄をバランスよく行いましょう。



非常用持ち出し品リスト

- | | | |
|-------------------------------------|--|--|
| ☐ 水 | ☐ 固形燃料・缶切り | ☐ 生理用品 |
| ☐ 食料 | ☐ マッチ・ライター | ☐ 予備のメガネ・コンタクト用品 |
| ☐ 衣類 | ☐ ティッシュ・ウェットティッシュ | ☐ メモ帳・筆記用具 |
| ☐ タオル・手袋・ポリ袋 | ☐ トイレットペーパー | ☐ 子どもの大切なもの(心のよりどころになるもの) |
| ☐ 雨具・防寒具 | ☐ 石けん・水のいらないシャンプー | ☐ 現金 |
| ☐ ヘルメット | ☐ ^{こうくう} 口ケア用品 | ☐ 免許証・健康保険証(コピー可) |
| ☐ 携帯ラジオ | ☐ 風邪薬・胃腸薬・ばんそうこう | ☐ 印鑑・預貯金通帳 |
| ☐ 懐中電灯 | ☐ 普段飲んでいる薬、お薬手帳 | ☐ パスワードやログイン ID のメモ |
| ☐ モバイルバッテリー | ☐ 感染症対策用品(マスクなど) | |



自分にとって必要なものを準備して、持ち出しやすい場所に置きましょう。



上記のリストのほかに、高齢者や介護が必要な人がいる家庭は、介護食、紙おむつ、介護手帳などの備えを。乳児や産婦がいる家庭は、哺乳ビン、ミルク、紙おむつ、母子手帳などを備えましょう。

日ごろから、防災ガイドブックを見て災害時のことを家族みんなで話し合うことも、大事な「備え」です。 **防災ガイドブック** 



いなべ市女性消防団
防災啓発活動

防災ブース

日時
10 月 27 日(日)
10:00 ~ 15:00

場所
いなべ市役所前広場

内容
「いなこねマルシェ」に
防災ブースを展開予定



耐震専門家が語る

いなべ市に住んでいて良かったと思えるような対策を



名古屋大学名誉教授
あいち・なごや強靱化共創センター長

福和 伸夫さん

専門分野の耐震工学にとどまらず、幅広い防災・減災の研究や講演活動を行い、地震災害軽減に取り組んでいる。中央防災会議防災対策実行会議南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ委員を務める。

避難所に行かなくてもいい住まいづくりを

災害発生後、行政は災害対応に追われるため、住民一人一人へのケアが難しくなるでしょう。避難所に行っても、運営は住民自らで行いますし、体調を崩すこともあります。避難所に行かなくてもいいような **「頑丈な家」に住んで**、電気やガスや水道が止まっても生活ができるような準備をしておいてください。

頑丈な家への例として、**屋根を軽くすること**、**壁を増やすこと**が挙げられます。

古い家では、瓦屋根の下に土が敷いてあり、瓦と土で重くなっています。屋根の素材を重いものから軽いものに変えると、建物にかかる力が弱まります。

昔ながらの住居に多い田の字の間取りは、壁が少なく揺れに弱いので、筋交いなどを入れると揺れに対する抵抗力が大きくなります。寝室の家具の固定や配置換えなどで、安全な所で寝ることも大切です。

自分の命は自分で守る

防災の基本は、「自分の命は自分で守る」ことです。8 月 8 日に発表された「南海トラフ地震臨時情報」に慌てた人がいると思いますが、**慌てたときにはもう遅い**。防災対策は、いかに普段から取り組んでいるかが大事です。

実は、田舎の暮らしは都会に比べて、自立する力があるので防災の面では非常に強い。いなべ市に住んでいることを利点と考えて、万が一のときに「いなべに住んでいて良かった」と思えるように、まずは 1 週間で自力で生き抜く備えをしましょう。

軽量の屋根



筋交い



特集 災害に備える

「まさか、元旦に地震が起きるなんて…」
そう思った人も多かったのではないのでしょうか。災害は、その「まさか」が現実になることがあります。
今こそ、備えることから始めてみませんか？

市防災アプリ「知らせーる」

市防災情報がスマートフォンに直接届きます。

